

日本WHO協会「関西グローバルヘルス(KGH)の集い」オンラインセミナー

等身大の＜わたし＞からみた ヘルスとウェルビーイング

熊谷晋一郎

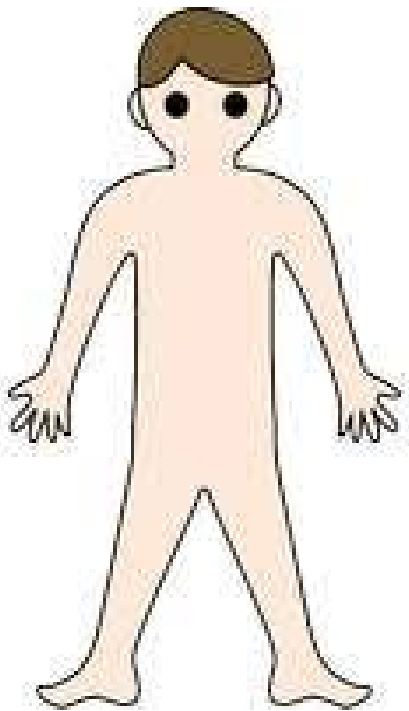
東京大学先端科学技術研究センター

東京大学バリアフリー支援室

はじめに

- 当事者研究
 - 唯一無二の「わたし」を対象とする研究実践
 - 精神障害等、周りからも自分からも理解しにくい苦労を抱えた当事者による、「自分助け」と「社会変革」の方法として、2001年に日本で誕生
- リベラル・アーツ
 - 人が自由になるために必要な知識や技術
- この講演のテーマ
 - 「わたしを知ること」と「自由になる」ことの関係
 - 「自由になること」に貢献する大学教育とは

「わたし」を形作る2つの要素



わたしだけの「からだ」



わたしだけの「物語」

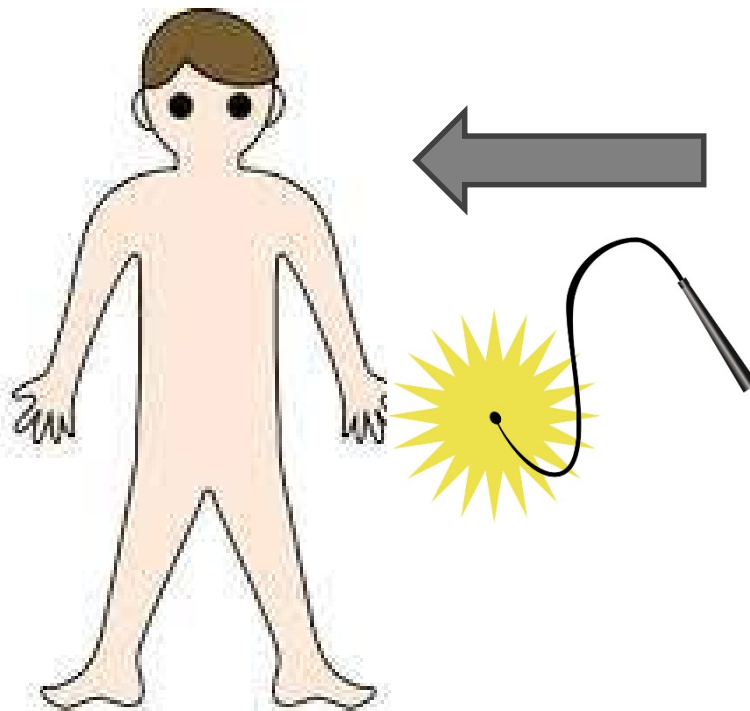
講義内容

- 1.「わたし」が生まれる
- 2.「わたし」を支えるつながり
- 3.「わたし」から始まる学知

1970年代：健常者に近づかなくては 社会で生きていられない



「わたし」を形作る2つの要素



わたしだけの「からだ」



親・社会の「物語」

障害者自立生活運動の系譜

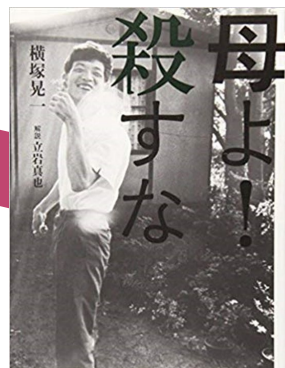
スライド提供: 綾屋紗月

1972 アメリカ 自立生活センター (CIL) 設立



エド・ロバーツ
(1939-1995)
ポリオ後の呼吸四肢麻痺

1970年前後 日本 障害者人権運動 日本脳性マヒ者協会「青い芝の会」 神奈川県連合会



横塚晃一 (1935-1978)

障害者独自の視点から健常者中心社会に
対抗していく運動



横田弘 (1933-2013)

1986 日本 自立生活センター (CIL) 設立 「ヒューマンケア協会」



中西正司 (1944-)
頸椎損傷

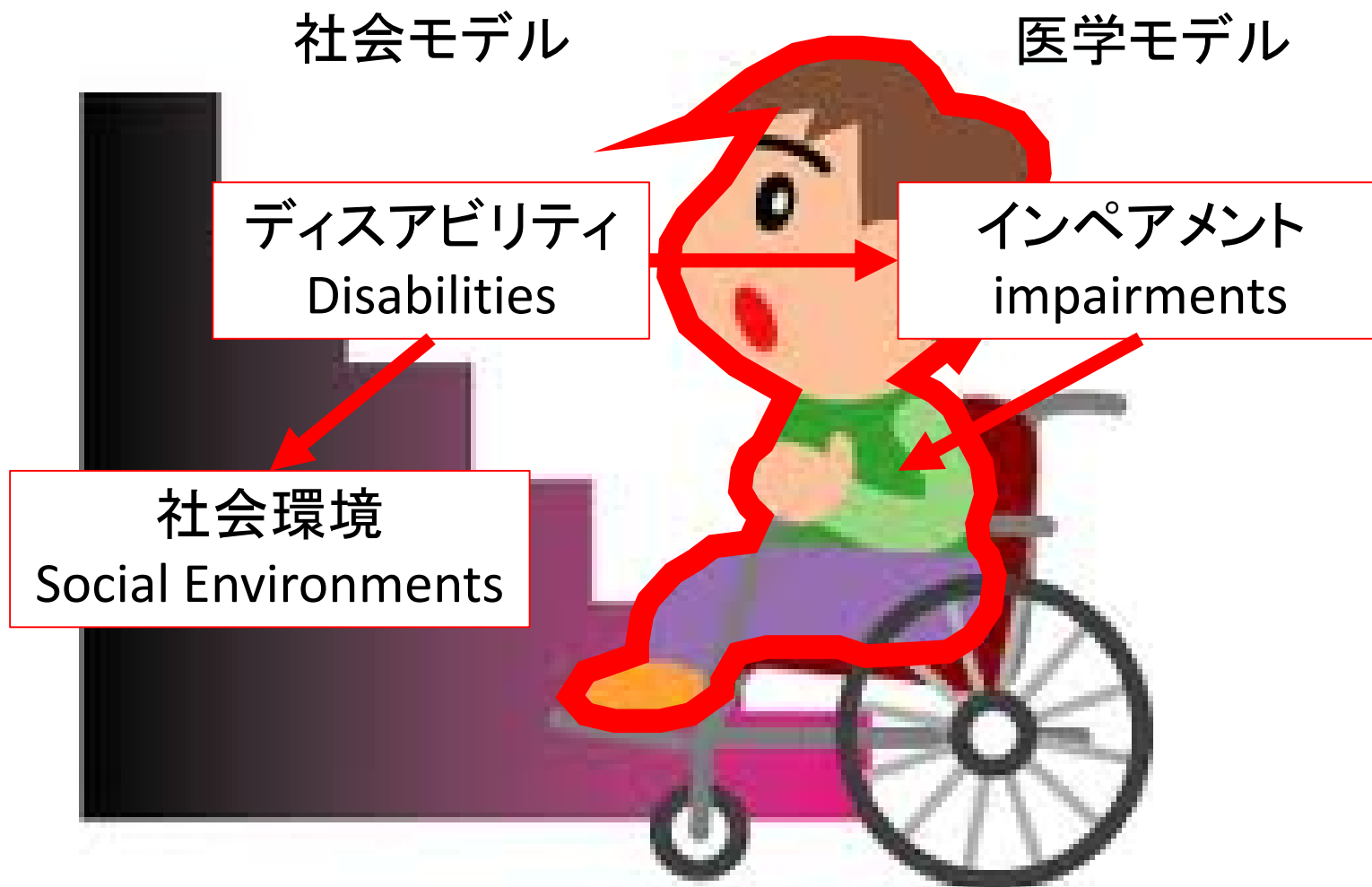
1970年代以降 日本 公的介護保障要求運動



新田勲 (1940-2013)

24時間要介護の
重度脳性マヒ者たちが
介護者を確保する
ための運動

どこに「しょうがい」は宿るか？



リベラルアーツに寄せて

アマルティア・セン

潜在能力アプローチ
「できる範囲」の平等

機能 $b_i = f_i(c(x_i))$

x_i : 個人 i が所有する財

$c(\)$: 財をその属性に変換する関数

$f_i(\)$: 個人 i が可能な財の利用パターンを表す関数

b_i : 個人 i が財 x_i から生み出せる機能 (doing や being)

個人 i の潜在能力 $Q_i(X_i)$

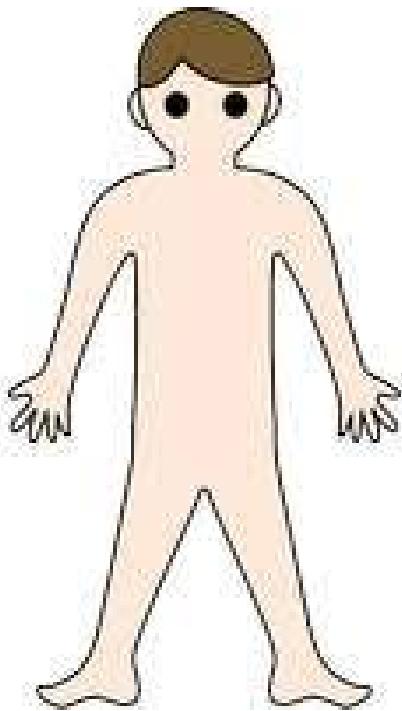
個人 i が所有する x_i と f_i の全体を定義域 (それぞれ X_i 、 F_i) としたときの b_i の値域

潜在能力

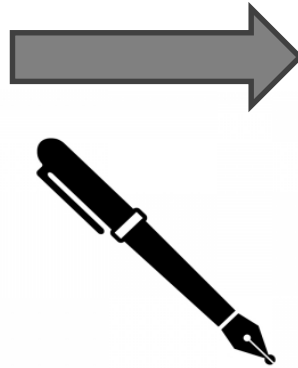
- 財と効用との間にあって、ある人が潜在的に何ができ (doing)、どんな状態になれるか (being) によってその人の生活の状況を評価しようとするもの。
- 潜在能力は選択肢の幅を示すだけであり、実際には、そのなかから選択が行われ、現実の生活の内容 (実現された機能) が決まる。
- ある人がどんな生き方をすることができるかという意味での「自由」も表すことになる。

一人暮らし

「わたし」を形作る2つの要素



わたしだけの「からだ」



わたしだけの「物語」

モノと作り上げる動き



トイレとのチューニング



何度も経験する「失敗」は、私の体のこわばりを緩める



緩んだ私の身体は、周囲とつながるためのあそびを持つ



私の意識が必ずしも届かない場所で、
半ば自動的にトイレとのチューニングを始める

トイレに対して繰り出すさまざまな運動のレパートリーが増えた

⇒自分の輪郭がはっきりしてくる感じ

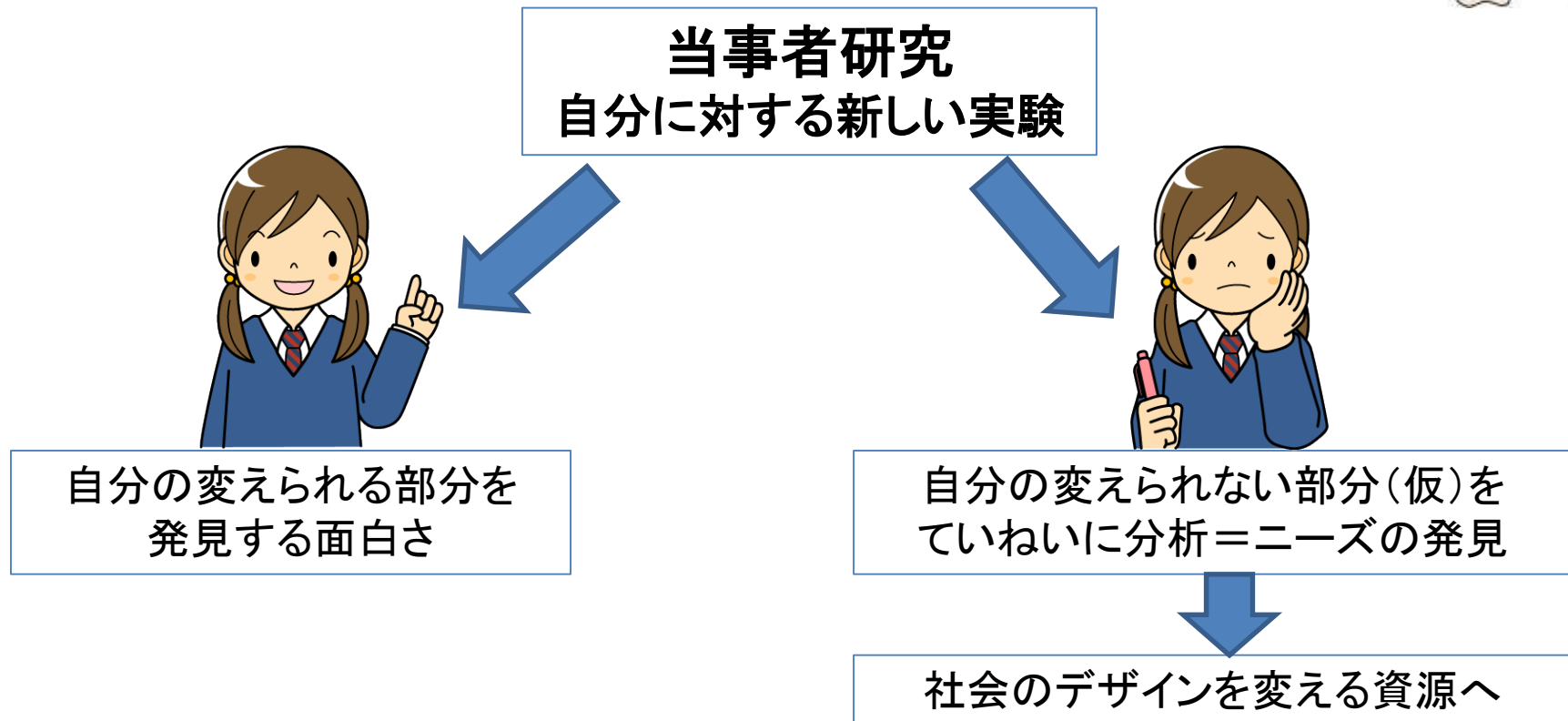
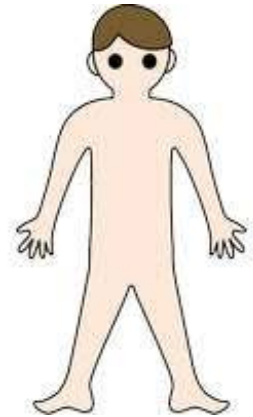
私の運動に応答する形で、便座の高さ、滑りやすさや
体重をかけたときのぐらつきぐあい、腰掛けたときの体と便座の摩擦など、
トイレについての特徴を知ることになった

⇒世界がはっきり見えてくる感じ

当事者研究で身体的自己を探り、環境を変える

当事者研究は

自分の「変えられる／変えられない」の線がどこに引けるのかを探究させ続けてくれる終わりのない態度



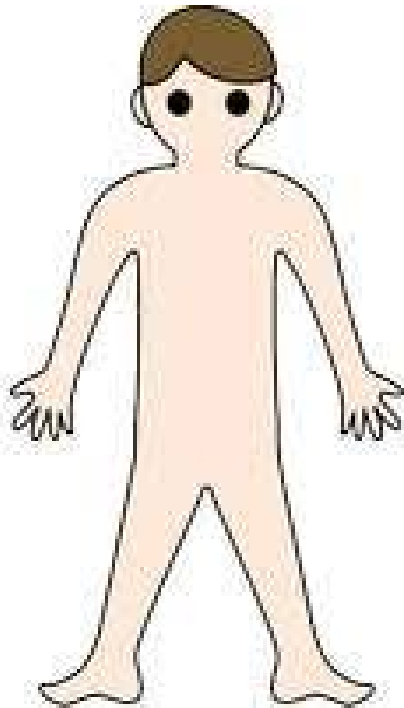
講義内容

- 1.「わたし」が生まれる
- 2.「わたし」を支えるつながり
- 3.「わたし」から始まる学知

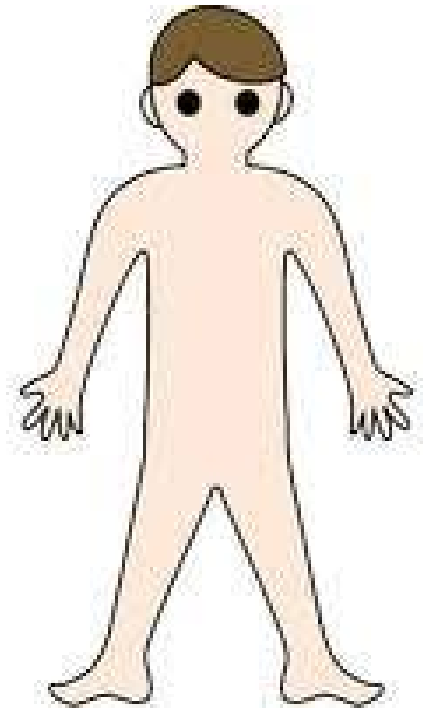
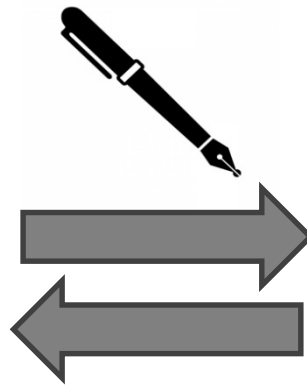
「わたし」を形作る2つの要素



わたしだけの「物語」



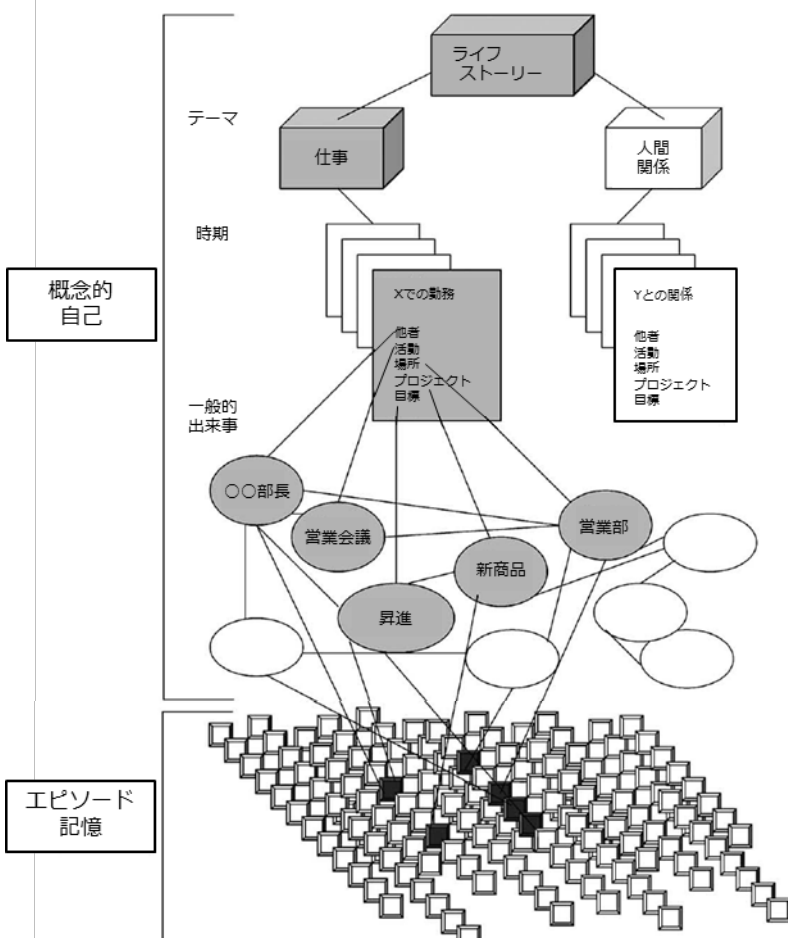
わたし



類似した仲間

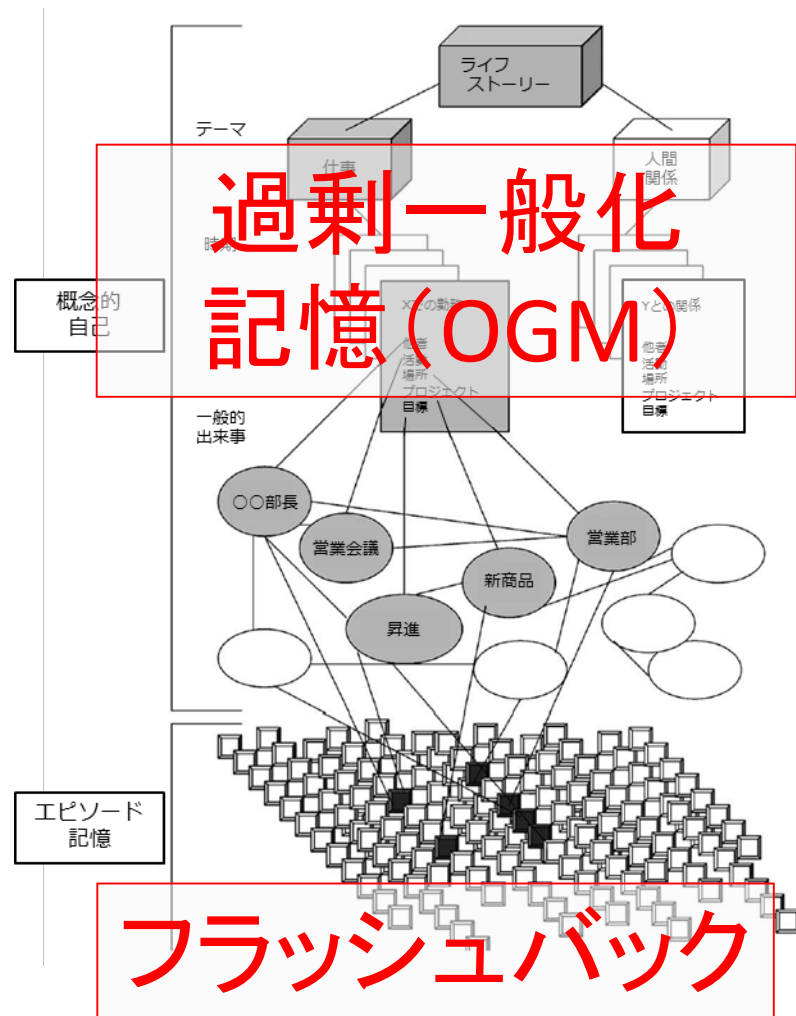
自伝的記憶の構造

(Conway, 2005)



1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	2041年	2042年	2043年	2044年	2045年	2046年	2047年	2048年	2049年	2050年	2051年	2052年	2053年	2054年	2055年	2056年	2057年	2058年	2059年	2060年	2061年	2062年	2063年	2064年	2065年	2066年	2067年	2068年	2069年	2070年	2071年	2072年	2073年	2074年	2075年	2076年	2077年	2078年	2079年	2080年	2081年	2082年	2083年	2084年	2085年	2086年	2087年	2088年	2089年	2090年	2091年	2092年	2093年	2094年	2095年	2096年	2097年	2098年	2099年	2100年	2101年	2102年	2103年	2104年	2105年	2106年	2107年	2108年	2109年	2110年	2111年	2112年	2113年	2114年	2115年	2116年	2117年	2118年	2119年	2120年	2121年	2122年	2123年	2124年	2125年	2126年	2127年	2128年	2129年	2130年	2131年	2132年	2133年	2134年	2135年	2136年	2137年	2138年	2139年	2140年	2141年	2142年	2143年	2144年	2145年	2146年	2147年	2148年	2149年	2150年	2151年	2152年	2153年	2154年	2155年	2156年	2157年	2158年	2159年	2160年	2161年	2162年	2163年	2164年	2165年	2166年	2167年	2168年	2169年	2170年	2171年	2172年	2173年	2174年	2175年	2176年	2177年	2178年	2179年	2180年	2181年	2182年	2183年	2184年	2185年	2186年	2187年	2188年	2189年	2190年	2191年	2192年	2193年	2194年	2195年	2196年	2197年	2198年	2199年	2200年	2201年	2202年	2203年	2204年	2205年	2206年	2207年	2208年	2209年	2210年	2211年	2212年	2213年	2214年	2215年	2216年	2217年	2218年	2219年	2220年	2221年	2222年	2223年	2224年	2225年	2226年	2227年	2228年	2229年	2230年	2231年	2232年	2233年	2234年	2235年	2236年	2237年	2238年	2239年	2240年	2241年	2242年	2243年	2244年	2245年	2246年	2247年	2248年	2249年	2250年	2251年	2252年	2253年	2254年	2255年	2256年	2257年	2258年	2259年	2260年	2261年	2262年	2263年	2264年	2265年	2266年	2267年	2268年	2269年	2270年	2271年	2272年	2273年	2274年	2275年	2276年	2277年	2278年	2279年	2280年	2281年	2282年	2283年	2284年	2285年	2286年	2287年	2288年	2289年	2290年	2291年	2292年	2293年	2294年	2295年	2296年	2297年	2298年	2299年	2300年	2301年	2302年	2303年	2304年	2305年	2306年	2307年	2308年	2309年	2310年	2311年	2312年	2313年	2314年	2315年	2316年	2317年	2318年	2319年	2320年	2321年	2322年	2323年	2324年	2325年	2326年	2327年	2328年	2329年	2330年	2331年	2332年	2333年	2334年	2335年	2336年	2337年	2338年	2339年	2340年	2341年	2342年	2343年	2344年	2345年	2346年	2347年	2348年	2349年	2350年	2351年	2352年	2353年	2354年	2355年	2356年	2357年	2358年	2359年	2360年	2361年	2362年	2363年	2364年	2365年	2366年	2367年	2368年	2369年	2370年	2371年	2372年	2373年	2374年	2375年	2376年	2377年	2378年	2379年	2380年	2381年	2382年	2383年	2384年	2385年	2386年	2387年	2388年	2389年	2390年	2391年	2392年	2393年	2394年	2395年	2396年	2397年	2398年	2399年	2400年	2401年	2402年	2403年	2404年	2405年	2406年	2407年	2408年	2409年	2410年	2411年	2412年	2413年	2414年	2415年	2416年	2417年	2418年	2419年	2420年	2421年	2422年	2423年	2424年	2425年	2426年	2427年	2428年	2429年	2430年	2431年	2432年	2433年	2434年	2435年	2436年	2437年	2438年	2439年	2440年	2441年	2442年	2443年	2444年	2445年	2446年	2447年	2448年	2449年	2450年	2451年	2452年	2453年	2454年	2455年	2456年	2457年	2458年	2459年	2460年	2461年	2462年	2463年	2464年	2465年	2466年	2467年	2468年	2469年	2470年	2471年	2472年	2473年	2474年	2475年	2476年	2477年	2478年	2479年	2480年	2481年	2482年	2483年	2484年	2485年	2486年	2487年	2488年	2489年	2490年	2491年	2492年	2493年	2494年	2495年	2496年	2497年	2498年	2499年	2500年	2501年	2502年	2503年	2504年	2505年	2506年	2507年	2508年	2509年	2510年	2511年	2512年	2513年	2514年	2515年	2516年	2517年	2518年	2519年	2520年	2521年	2522年	2523年	2524年	2525年	2526年	2527年	2528年	2529年	2530年	2531年	2532年	2533年	2534年	2535年	2536年	2537年	2538年	2539年	2540年	2541年	2542年	2543年	2544年	2545年	2546年	2547年	2548年	2549年	2550年	2551年	2552年	2553年	2554年	2555年	2556年	2557年	2558年	2559年	2560年	2561年	2562年	2563年	2564年	2565年	2566年	2567年	2568年	2569年	2570年	2571年	2572年	2573年	2574年	2575年	2576年	2577年	2578年	2579年	2580年	2581年	2582年	2583年	2584年	2585年	2586年	2587年	2588年	2589年	2590年	2591年	2592年	2593年	2594年	2595年	2596年	2597年	2598年	2599年	2600年	2601年	2602年	2603年	2604年	2605年	2606年	2607年	2608年	2609年	2610年	2611年	2612年	2613年	2614年	2615年	2616年	2617年	2618年	2619年	2620年	2621年	2622年	2623年	2624年	2625年	2626年	2627年	2628年	2629年	2630年	2631年	2632年	2633年	2634年	2635年	2636年	2637年	2638年	2639年	2640年	2641年	2642年	2643年	2644年	2645年	2646年	2647年	2648年	2649年	2650年	2651年	2652年	2653年	2654年	2655年	2656年	2657年	2658年	2659年	2660年	2661年	2662年	2663年	2664年	2665年	2666年	2667年	2668年	2669年	2670年	2671年	2672年	2673年	2674年	2675年	2676年	2677年	2678年	2679年	2680年	2681年	2682年	2683年	2684年	2685年	2686年	2687年	2688年	2689年	2690年	2691年	2692年	2693年	2694年	2695年	2696年	2697年	2698年	2699年	2700年	2701年	2702年	2703年	2704年	2705年	2706年	2707年	2708年	2709年	2710年	2711年	2712年	2713年	2714年	2715年	2716年	2717年	2718年	2719年	2720年	2721年	2722年	2723年	2724年	2725年	2726年	2727年	2728年	2729年	2730年	2731年	2732年	2733年	2734年	2735年	2736年	2737年	2738年	2739年	2740年	2741年	2742年	2743年	2744年	2745年	2746年	2747年	2748年	2749年	2750年	2751年	2752年	2753年	2754年	2755年	2756年	2757年	2758年	2759年	2760年	2761年	2762年	2763年	2764年	2765年	2766年	2767年	2768年	2769年	2770年	2771年	2772年	2773年	2774年	2775年	2776年	2777年	2778年	2779年	2780年	2781年	2782年	2783年	2784年	2785年	2786年	2787年	2788年	2789年	2790年	2791年	2792年	2793年	2794年	2795年	2796年	2797年	2798年	2799年	2800年	2801年	2802年	2803年	2804年	2805年	2806年	2807年	2808年	2809年	2810年	2811年	2812年	2813年	2814年	2815年	2816年	2817年	2818年	2819年	2820年	2821年	2822年	2823年	2824年	2825年	2826年	2827年	2828年	2829年	2830年	2831年	2832年	2833年	2834年	2835年	2836年	2837年	2838年	2839年	2840年	2841年	2842年	2843年	2844年	2845年	2846年	2847年	2848年	2849年	2850年	2851年	2852年	2853年	2854年	2855年	2856年	2857年	2858年	2859年	2860年	2861年	2862年	2863年	2864年	2865年	2866年	2867年	2868年	2869年	2870年	2871年	2872年	2873年	2874年	2875年	2876年	2877年	2878年	2879年	2880年	2881年	2882年	2883年	2884年	2885年	2886年	2887年	2888年	2889年	2890年	2891年	2892年	2893年	2894年	2895年	2896年	2897年	2898年	2899年	2900年	2901年	2902年	2903年	2904年	2905年	2906年	2907年	2908年	2909年	2910年	2911年	2912年	2913年	2914年	2915年	2916年	2917年	2918年	2919年	2920年	2921年	2922年	2923年	2924年	2925年	2926年	2927年	2928年	2929年	2930年	2931年	2932年	2933年	2934年	2935年	2936年	2937年	2938年	2939年	2940年	2941年	2942年	2943年	2944年	2945年	2946年	2947年	2948年	2949年	2950年	2951年	2952年	2953年	2954年	2955年	2956年	2957年	2958年	2959年	2960年	2961年	2962年	2963年	2964年	2965年	2966年	2967年	2968年	2969年	2970年	2971年	2972年	2973年	2974年	2975年	2976年	2977年	2978年	2979年	2980年	2981年	2982年	2983年	2984年	2985年	2986年	2987年	2988年	2989年	2990年	2991年	2992年	2993年	2994年	2995年	2996年	2997年	2998年	2999年	3000年	3001年	3002年	3003年	3004年	3005年	3006年	3007年	3008年	3009年	3010年	3011年	3012年	3013年	3014年	3015年	3016年	3017年	3018年	3019年	3020年	3021年	3022年	3023年	3024年	3025年	3026年	3027年	3028年	3029年	3030年	3031年	3032年	3033年	3034年	3035年	3036年	3037年	3038年	3039年	3040年	3041年	3042年	3043年	3044年	3045年	3046年	3047年	3048年	3049年	3050年	3051年	3052年	3053年	3054年	3055年	3056年	3057年	3058年	3059年	3060年	3061年	3062年	3063年	3064年	3065年	3066年	3067年	3068年	3069年	3070年	3071年	3072年	3073年	3074年	3075年	3076年	3077年	3078年	3079年	3080年	3081年	3082年	3083年	3084年	3085年	3086年	3087年	3088年	3089年	3090年	3091年	3092年	3093年	3094年	3095年	3096年	3097年	3098年	3099年	3100年	3101年	3102年	3103年	3104年	3105年	3106年	3107年	3108年	3109年	3110年	3111年	3112年	3113年	3114年	3115年	3116年	3117年	3118年	3119年	3120年	3121年	3122年	3123年	3124年	3125年	3126年	3127年	3128年	3129年	3130年	3131年	3132年	3133年	3134年	3135年	3136年	3137年	3138年	3139年	3140年	3141年	3142年	3143年	3144年	3145年	3146年	3147年	3148年	3149年	3150年	3151年	3152年	3153年	3154年	3155年	3156年	3157年	3158年	3159年	3160年	3161年	3162年	3163年	3164年	3165年	3166年	3167年	3168年	3169年	3170年	3171年	3172年	3173年	3174年	3175年	3176年	3177年	3178年	3179年	3180年	3181年	3182年	3183年	3184年	3185年	3186年	3187年	3188年	3189年	3190年	3191年	3192年	3193年	3194年	3195年	3196年	3197年	3198年	3199年	3200年	3201年	3202年	3203年	3204年	3205年	3206年	3207年	3208年	3209年	3210年	3211年	3212年	3213年	3214年	3215年	3216年	3217年
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

自伝的記憶が統合されにくい状態



1. 大鬱病性障害(MDD)

(Brewin et al., 1998; Kuyken & Dalgleish, 1995;

Moore et al., 1988; Williams & Scott, 1988)

2. トラウマ症状

(Kuyken & Brewin, 1995)

3. 心的外傷後ストレス障害

(McNally et al., 1994; 1995)

4. 摂食障害

(Dalgleish et al., 2003)

5. 季節性情動障害

(Dalgleish et al., 2001)

6. 自閉スペクトラム症

(Crane et al., 2010; 2013)

物語りかたのくせ

◆詳細で実感を伴った具体的な経験

(Specific AM)

短期の、一日以上続かない一回性の出来事の記憶(例: 大学生活初日)

◆一般論 (Overgeneral Categorical AM)

繰り返してきた出来事の記憶

(例: 大学での講義)

◆大ざっぱな自己紹介

(Overgeneral Extended AM)

一日以上続く一回性の出来事の記憶

(例: 大学1年時)

過剰一般化記憶
(OGM)

OGMとウェルビーイング（自覚的なQOL）

- 24研究 (2,595名の被験者)
- ワーキング・メモリー、短期記憶、長期記憶、自伝的記憶の特徴と自殺企図との相関
- 自殺企図歴は、自伝的記憶の具体性の低さや過剰抽象化と有意に相関
- 過去の経験を用いて、現在の課題を解決したり、未来の展望を描くことの困難が、自殺に影響をしている可能性

フラッシュバック

1. 大鬱病性障害 (MDD)
(Brewin et al., 1998; Kuyken & Dalglish, 1995; Moore et al., 1988; Williams & Scott, 1988)
2. トラウマ症状
(Kuyken & Brewin, 1995)
3. 心的外傷後ストレス障害
(McNally et al., 1994; 1995)
4. 摂食障害
(Dalglish et al., 2003)
5. 季節性情動障害
(Dalglish et al., 2001)
6. 自閉スペクトラム症
(Crane et al., 2010; 2013)

ASDにおけるエピソード記憶の システム・コンソリデーション不全

ASDの当事者研究(綾屋・熊谷、2008)

フラッシュバック

眠くなると・・・



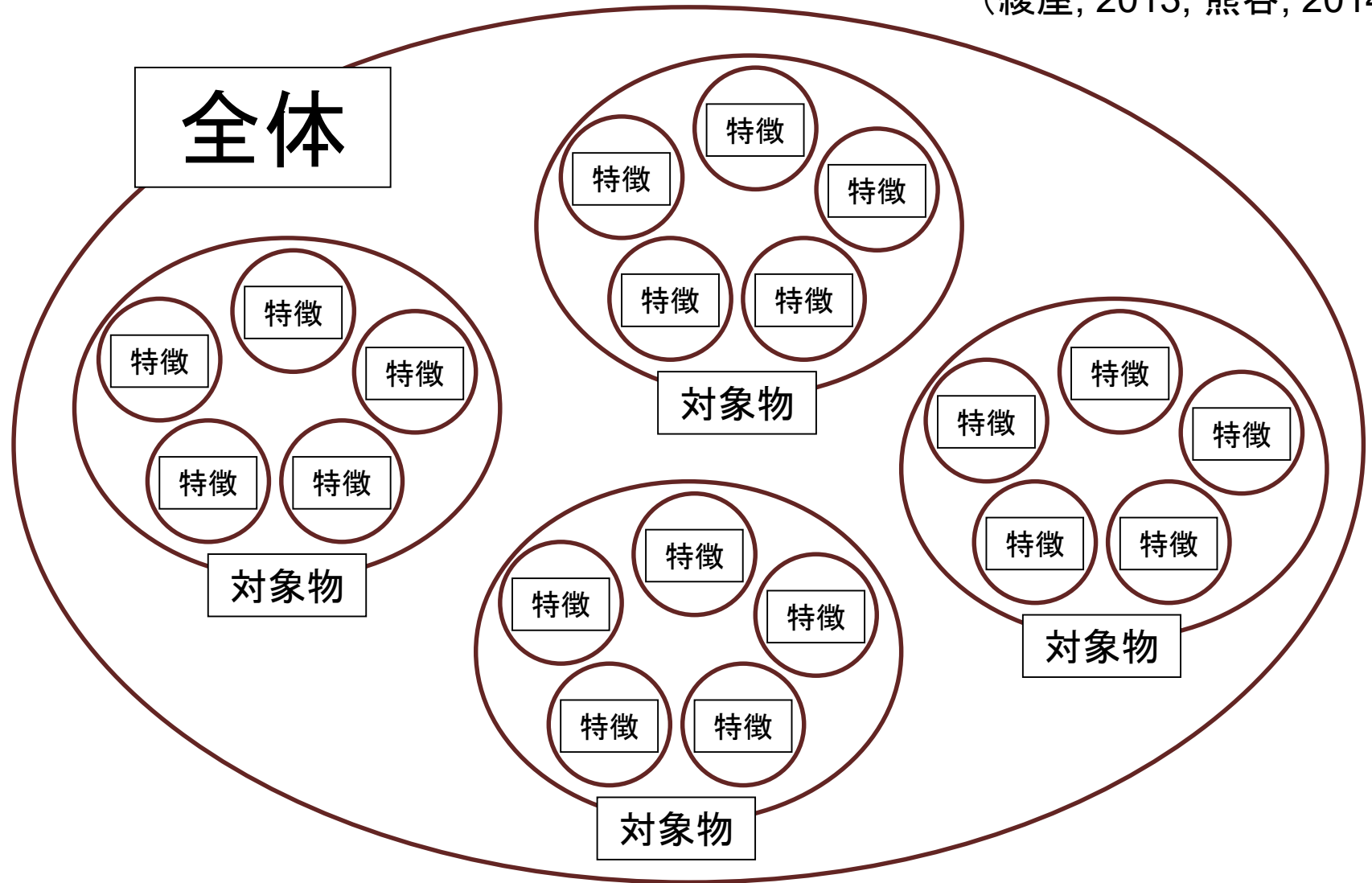
帰属的推論と反芻



イラスト:わたなべふみ

認知過程におけるカテゴリー化の粒度がより細かい

(綾屋, 2013; 熊谷, 2014)



フォーカスした情報をたくさん撮取する
＝差異に気づきやすい





【紫の雑草】



マメ科:カラスノエンドウ

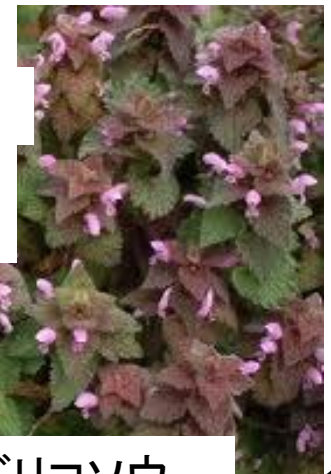


科学的、図鑑的な
カテゴリーによって

承認が得られることもある
当事者研究は既存の科学的言説を
排除しない



タデ科:イヌダラ



ホトケノザ



ヒメオドリコソウ

ASD者のカテゴリー化の特徴

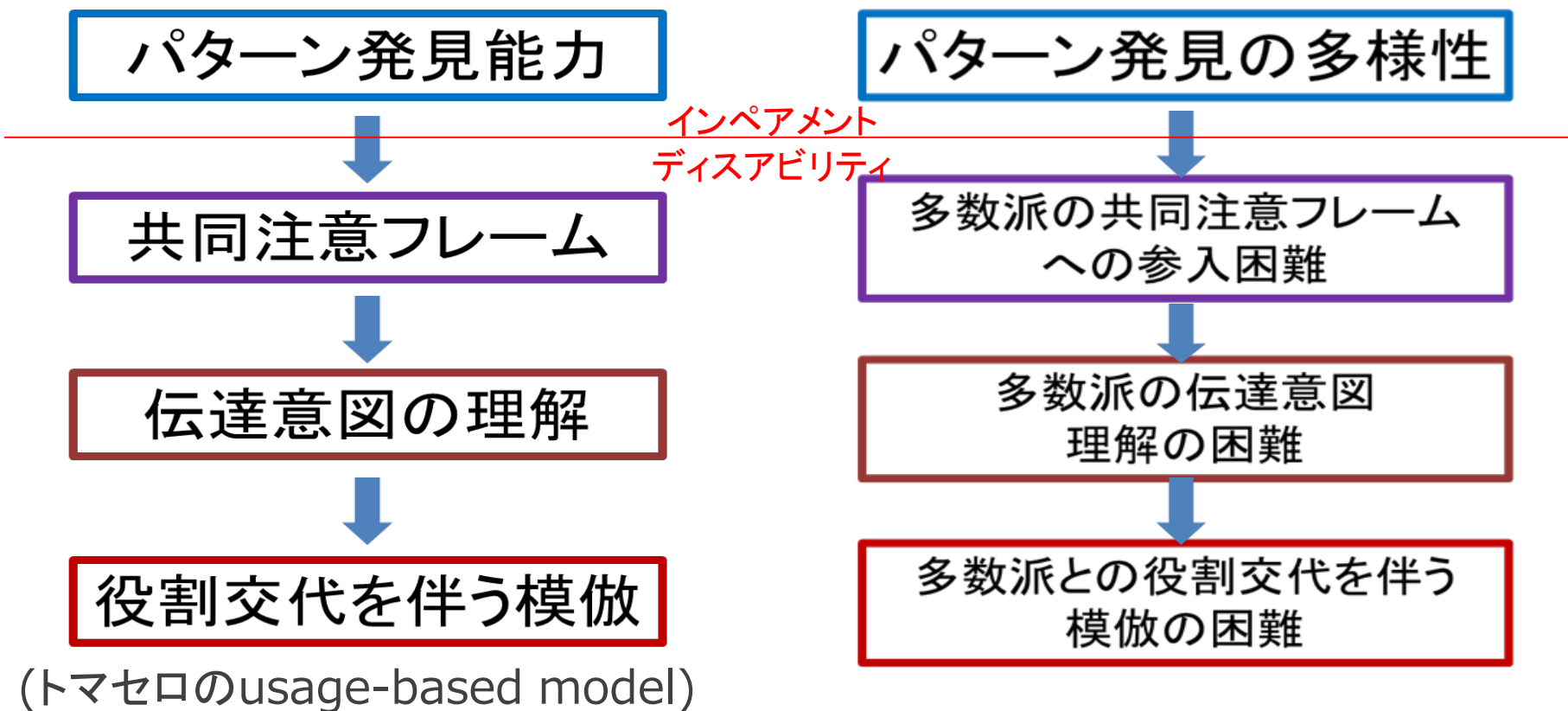
- 典型度の高い例の場合には、カテゴリー化の能力に ASD者とTD者とで有意差はない。
- 典型度の低い例に対するカテゴリー判断については、ASD者はTD者に比べ、不得意。(Gastgeb, 2006)



経験に合った言葉が流通していない

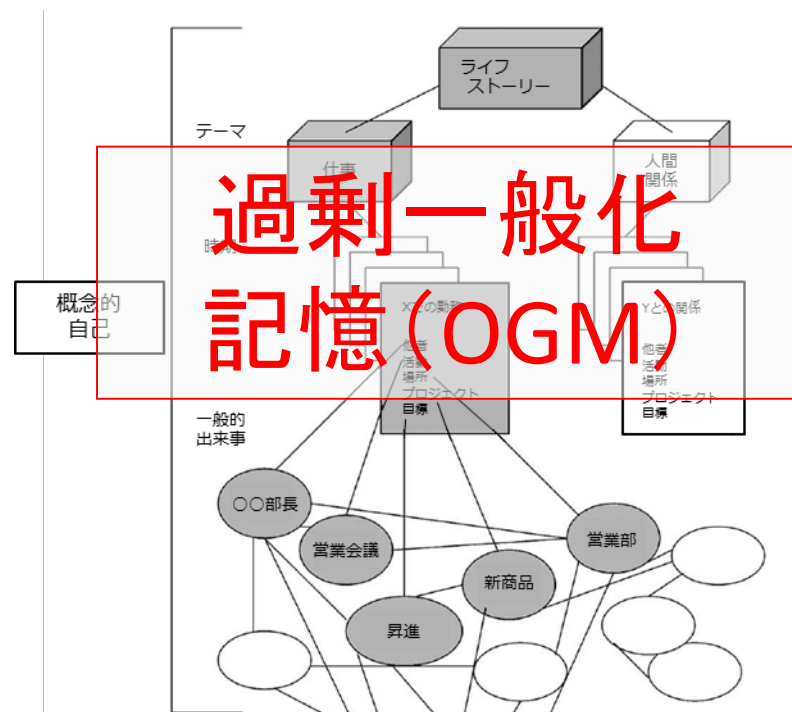


身体に根付いた世界の切り分け



少数派独自の共同注意フレーム立ち上げによって、
自己感、共感、社会性が改善する可能性

自伝的記憶が統合されにくい状態



1. 大鬱病性障害 (MDD)

(Brewin et al., 1998; Kuyken & Dalgleish, 1995;

Moore et al., 1988; Williams & Scott, 1988)

2. トラウマ症状

(Kuyken & Brewin, 1995)

3. 心的外傷後ストレス障害

(McNally et al., 1994; 1995)

4. 摂食障害

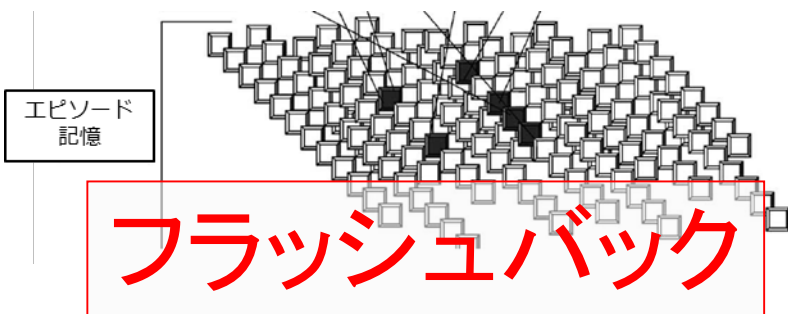
(Dalgleish et al., 2003)

5. 季節性情動障害

(Dalgleish et al., 2001)

6. 自閉スペクトラム症

(Crane et al., 2010; 2013)

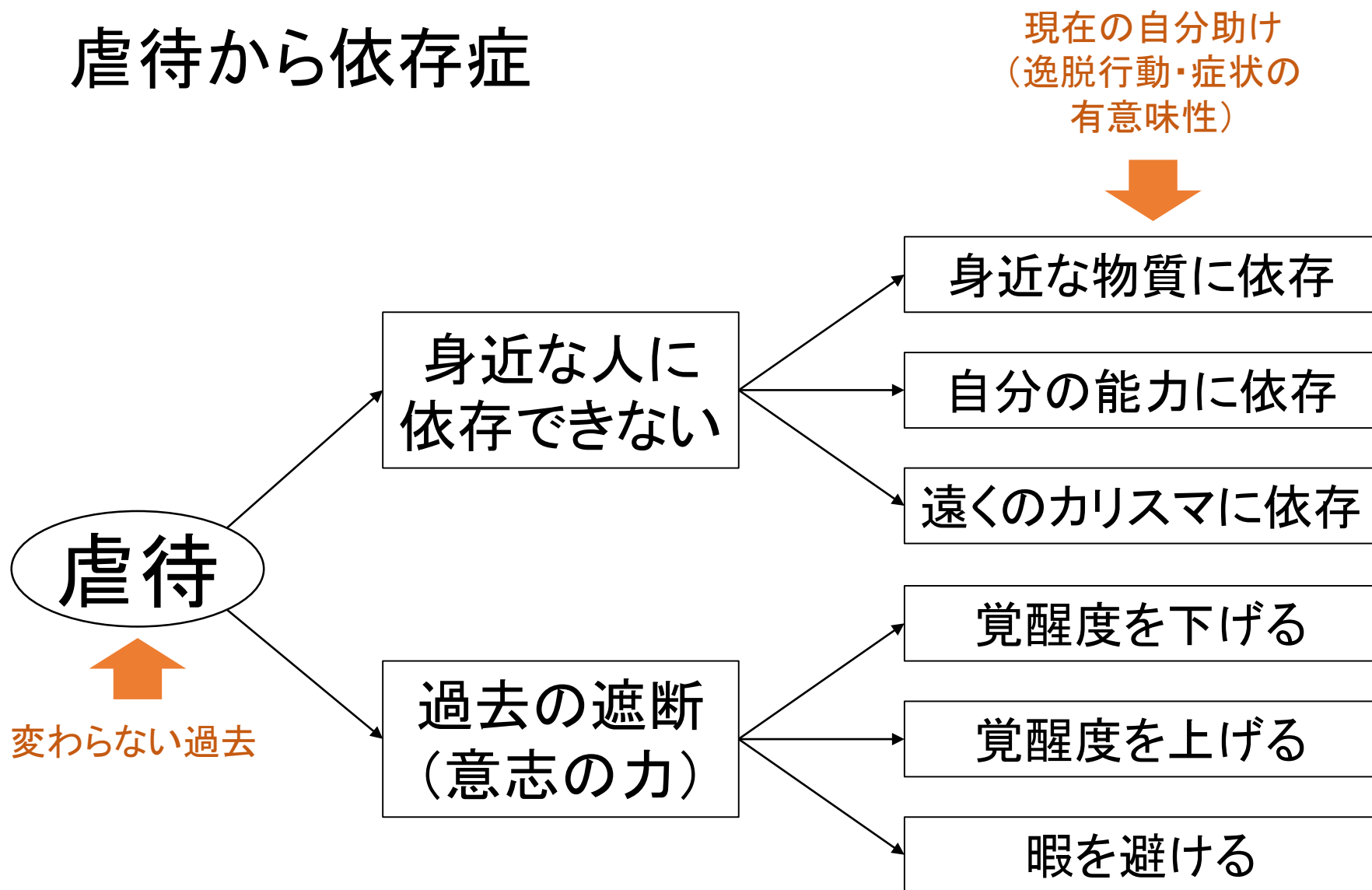


トラウマとアディクション

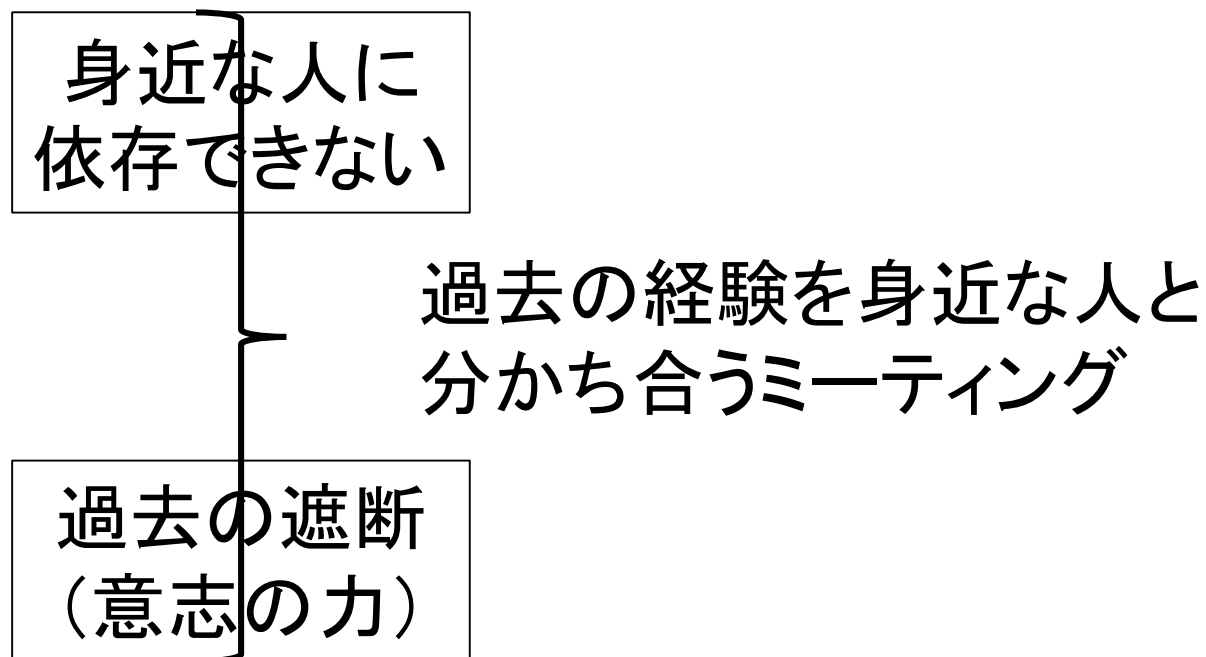
- 外来を受診する依存症患者の約半数が心的外傷後ストレス障害(PTSD)の診断を満たしている(Brady et al., 2004)
- PTSDの合併によって依存症の予後が悪くなる(Simpson et al., 2012)
- PTSDの症状を和らげるための自己対処法として依存症をとらえるモデルの提案(Khantzian, 1999)。



虐待から依存症



虐待から依存症



善き生にとって最低限必要だと思われる 潜在能力のリスト

◆「生命」「身体的健康」「身体的保全」「感覚・想像力・思考」
「感情」「**実践理性**」「**連帯**」「自然との共生」「遊び」「環境のコントロール」

◆実践理性と連帯の2つ

「他のすべての項目を組織し、覆うものであるために特別に重要であり、それによってひとは真に人間らしくなる」

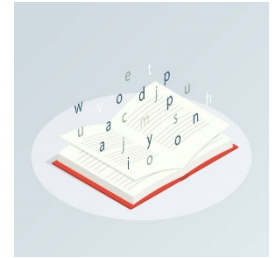
□ 実践理性

自己の善の構想を形成するとともにその将来を考え、人生を設計し、その生き方を反省する能力(潜在能力からの**自己決定**)

□ 連帯

他者と会話し、他者に関心をもち他者と協働できる能力

歴史的自己の機能—連帯と実践理性



生きやすさ
Wellbeing

心の理論(連帯)
Theory of Mind

自伝的記憶

展望記憶(実践理性)
Prospective Memory

反実仮想的思考(創造・想像力)
Counterfactual Thinking

OGMにならないための条件

- 「出来事に意味を付与する」とは、その出来事を反復パターン(タイプ)の一具体例(トークン)と見做すこと
- しかしエピソード記憶はその定義上、一回性の出来事であり、一人ではパターン抽出できない
- 複数主体がナラティブを交換することで、互いの一回性の出来事に共通するパターン抽出が可能になる

- 1) ローカルな人間関係において詳細で一貫性のあるナラティブがつむがれること
- 2) 所属する文化が自伝的記憶の記述フォーマットを与えてくれること



少数派の場合、そのいずれもが得られにくい。



少数派同士で経験を分かち合い自己知を共同創造する当事者研究の効果

障害者の2つの主張

適切なサポートで障害のある人も能力を
発揮できる社会を実現すべき

（優生思想のもとでの機会の平等
潜在能力アプローチもこちらに傾く）

能力の有無を超えて尊厳のある人生を
歩む権利がある

（反優生思想）

Gregory Barber.

どの患者を“助けない”べきなのか？

WIRED, 2020.4.5

呼吸器割り当てに関する パンデミックガイドライン

HMO最大の「カイザーパーマネンテ (Kaiser Permanente)」が、ピッツバーグ大学の救急救命治療研究者ダグ・ホワイトの提案するSOFAスコアや回復して退院した場合の予測寿命等を考慮した複合的な評価基準に基づいて、呼吸器の割り当てや中止に関する草案を作成中。

「人工呼吸器の優先割り当ては障害者差別につながる」「効率の名の下で公正さは犠牲になるだろう」

アリ・ネーマン(ハーヴァード大学・障害者活動家)

アメリカの医療保険システム

① 公的健康保険制度

- ・65歳以上を対象としたメディケア
- ・低所得者を対象としたメディケイド

② 民間健康保険制度

- ・健康維持機構 (Health maintenance organization: HMO)
- ・優先医療給付機構 (Preferred Provider Organization: PPO)
- ・出来高払い (Free For Service: FFS)

Editorial:

Redefining vulnerability in the era of COVID-19.

Lancet, 395, 1089.

「COVID-19に対応する際に、政策立案者は**健康の不平等を深めてしまうリスク**を考慮すべきです。脆弱なグループをちゃんと特定しないとしたら、このパンデミックの影響はさらに壊滅的なものになります。WHOのガイダンスに従う必要はあるものの、誰に対しても適用できる万能モデルは、適切なものではありません。各国は、最もリスクの高い人々を公正にサポートするために、**社会の中のどのグループが脆弱であるかを、継続的に評価する必要があります。**」

—根本的な質問をさせてください。そもそもなぜ生産性で人の価値を判断すべきではないと言えるのでしょうか？ 私たちの住む社会では人の価値を生産性で測ることが日常的に行われている気がします。

優生思想は、人の価値を、その人が生産した財やサービスの価値で測ることができるかと主張します。つまり、人の生産者としての側面に注目しています。しかしそもそも財やサービスに価値が宿るのは、それが人によって必要とされるからではないでしょうか。

つまり、**人の必要性こそが価値の源泉であって、生産性にも価値は宿るけれども、それは手段的かつ二次的な価値に過ぎない**のではないかと私は思うのです。誰にも必要とされない財やサービスを生産したとして、その生産性に価値は宿るのでしょうか？

生産性に価値が宿るのは条件付きですが、必要性には無条件に価値が宿っているとしか考えられないと個人的には思います。それが、生きていく上で様々な必要性をもつすべての人々に無条件に価値が宿ると私が考える理由です。

このように考えてくると、『生産性がない→その人に価値はない→その人の必要性(ニーズ)を満たす再分配は必要ない』という優生思想のロジックは、目的と手段が転倒してしまっているように感じます。

必要性

(よりよく)生きる
ために、様々な
財やサービスを
必要とする側面

当事者
(≡ User)



生産性

人々のために
様々な財やサー
ビスを生み出す
側面

生産者
(Provider)

講義内容

- 1.「わたし」が生まれる
- 2.「わたし」を支えるつながり
- 3.「わたし」から始まる学知

研究の共同創造

「財やサービスを利用する人が財やサービスをデザインするのに最適な人材だ」という原理

COMMENT

METRICS Patients, farmers and more must co-create tools to evaluate and incentivize p.32

INTERNET The rise of Reddit — social software or social malware? p.34

MATERIALS The interplay of minerals security and US foreign policy p.36

OPEN ACCESS Paywall documentary hits screens as Plan S lands p.37



Children with artificial limbs and their carers talk to researchers and industry representatives about improving prosthetics.

Co-production from proposal to paper

Three examples show how public participation in research can be extended at every step of the process to generate useful knowledge.

(Nature, 2018; Durose et al, 2018; Hicke, 2018)

多様な人々の自己知構築を
支えつつ進化するアカデミア

Democratizing clinical research

Keith Lloyd and Jo White commend a way for patients, clinicians and scientists to set priorities jointly.

Research priorities are rarely set democratically. Whereas clinical science is largely about establishing which treatments work best for whom, sadly, the views of those with most to gain or lose — patients — are generally ignored. Academics, industry and other big players with vital roles in developing treatments tend to set the agenda. But their priorities differ from those of patients and clinicians. For example, the outcomes measured in a trial of a drug may not be those of interest to the people who will actually take it.

The inclusion of patient demands is not a panacea. It can divert scarce research resources and delay important treatments. One solution is to try to harmonize the perspectives of patient and clinician. This is what the James Lind Alliance (JLA) Priority Setting Partnerships in Oxford, UK, attempt, perhaps uniquely. Established in 2004 and funded by the UK Medical Research Council and National Institute for Health Research (NIHR), the JLA

brings together patients, carers and clinicians to identify and rank questions about the effects of treatments for a given disease. Clinicians and academics — who may never meet patients — find long-held beliefs challenged and sometimes overturned.

The JLA process has recently been applied to schizophrenia — a mental illness affecting about one person in a hundred worldwide. We were involved in this exercise as clinical academics. This, plus our experience as recipients of grants and from within funding bodies, convinces us that money rarely goes to the studies that those with mental illness would choose. We therefore urge funders to adopt this list of top priorities for schizophrenia (see 'Top ten treatment uncertainties'), and entreat other countries and organizations to use the technique involved in compiling it to steer other clinical research.

Between 2007 and 2009, we and other collaborators from the JLA Partnership collated 489 potential uncertainties about

COMMENT

・研究の優先順位が民主的に決まることはめったにない。

・学術研究者、製薬会社など、

治療開発に大きな役割を持つ患者以外の利害関係者が、研究テーマを決めてしまう傾向にある。

・治験で採用される効果判定尺度は、実際に薬を飲むことになる患者の関心からずれている可能性がある。

(Lloyd & White, Nature, 2011)

当事者が求める研究課題トップ10

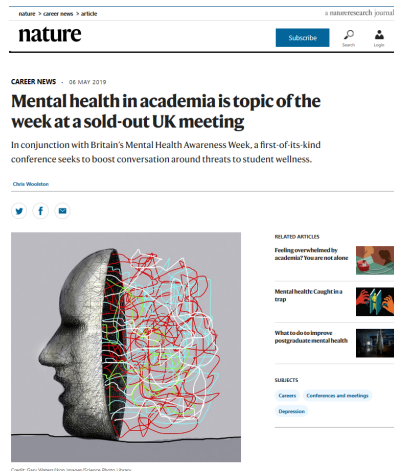
James Lind Alliance

- ① 治療抵抗性の統合失調症への対処法
- ② 再発徴候を早期に発見するために必要な訓練
- ③ 重度の精神疾患患者に対する外来強制治療の是非
- ④ 抗精神病薬による性機能障害への対処法
- ⑤ 支援付き就労の利点
- ⑥ 抗精神病薬の有害性は利点を上回るか？
- ⑦ 精神病エピソードを入院で治療することは在宅で治療するのと比べどんな利点があるか？
- ⑧ 統合失調症患者の身体的健康をモニターすることの利点とコスト
- ⑨ 入院治療、ACT、急性期デイケア等の社会的・臨床的・経済的アウトカム
- ⑩ 統合失調症の体重増加はどう対処すれば良いか

大学はどのように変革すべきか

インクルーシブ・デザイン・ラボプロジェクト

- ・ 東京大学の複数部局(先端科学技術研究センター、バリアフリー支援室、環境安全センター、大学総合教育研究センターなど)が連携
- ・ 目的は、誰ひとり取り残さないインクルーシブなキャンパスの実現



バリアフリー支援室、大学総合教育研究センター、ダイバーシティ推進課が共同してFD教材の共同開発開始

International Conference on the Mental Health & Wellbeing of Postgraduate Researchers

謙虚なリーダーへの注目

ますます不確実になりつつある環境の中で組織のかじ取りをするリーダーにとって、「謙虚さ」はより重要なものになりつつある。

(Morris et al., 2005; Vera and Rodriguez-Lopez, 2004; Weick, 2001)

様々な研究によって、組織のリーダーの謙虚さは、メンバーの学習志向性、エンゲージメント、仕事満足度に関連していることが報告されている。

(Owens and Hekman, 2012; Owens et al., 2013)

謙虚さの三要素

①自己を正確に見ようとする

- 自分の限界を包み隠さず、失敗を認め、自分についての現実的なフィードバックを求めるような他者とのやり取りを通じて、**強みだけでなく弱さをも含む正確な自己認識**を獲得しようとし続けようとする。
- 長期的にみると、より正確な自己認識を維持することは**高いウェルビーイング**をもたらす (Vaillant, 1992)、不正確な肯定的自己認識をもっていると不適応を起こす (Ungerer et al. 1997; Colvin et al. 1995)。特に**リーダーが自信過剰な場合、組織が危険な状況に置かれる**。
- 自己開示は「**信頼関係の向上**」「**関係性の満足度向上**」「**双方向性の自己開示**」をもたらす (Ehrlich and Graeven, 1971; Collins and Miller, 1994)。

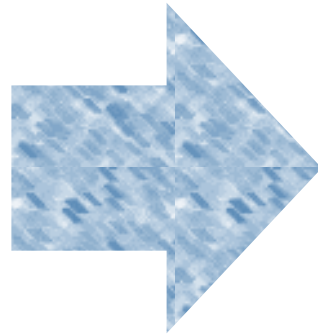
②他者の強みや貢献を認める

- 自己の価値を貶めるのではなく、**他者の価値を認めることが謙虚さ** (Means et al. 1990)。他者と比較や競争をしようとする構えを抜け出し、**脅かされることなく他者の強みや貢献を承認できる**ようになること (Exline et al., 2004)。
- 先行研究によると、**人は権力を持つと、他者の価値や貢献を低く見積もるようになる** (Kipnis, 1972)。
- 同僚の弱点や能力の低さに対して甘くなるという意味ではなく、**同僚のユニークな能力や強みを見つけ、価値をおけるようになる**こと。複眼的な視座から、他者が持つ複雑で多様な強みや技術を見つめ、できる人／できない人など、単純化された二元論的な他者評価を行わないこと。

③ティーチャビリティ

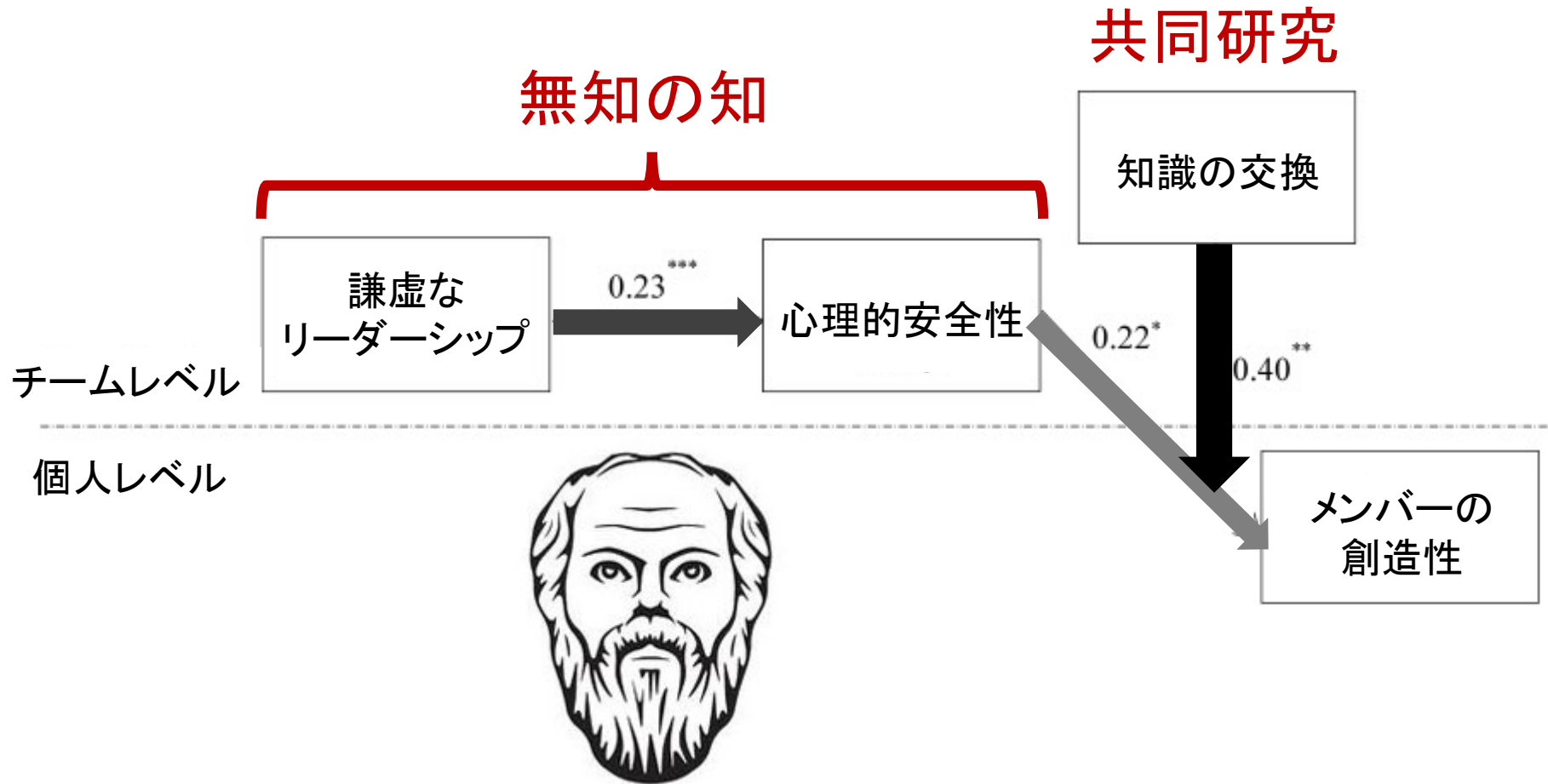
- 他者から喜んで学び、フィードバックや新しいアイデアをもらおうとする仲まいのこと。**「吸収力」** (Zahra and George, 2002) や、リーダーシップ研究の中で用いられてきた**「発達準備性」** (Avolio et al. 2009) といった性質と重なる。
- 現代の「知識経済」において、組織のメンバーが効果的に学べることは重要 (Dane and Pratt 2007)。特に**リーダーにとっては、学ぶことへの渴きは最も重要な特質のひとつ** (Church et al., 1998)。
- ティーチャビリティは、**周囲の人々に発言権を与えることで、信頼、モチベーション、正義にかなっており理不尽ではないという感覚 (sense of justice) を高める** (Cropanzano et al., 2007)。

自らの生産者性
に気づく当事者



自らの当事者性
に気づく生産者

組織研究では



Wang, Y., Liu, J., & Zhu, Y. (2018). Humble Leadership, Psychological Safety, Knowledge Sharing, and Follower Creativity: A Cross-Level Investigation. *Frontiers in Psychology*, 9, 1727.

研究計画

内閣府経済社会総合研究所国際共同研究「当事者研究の導入が障害のある社員の創造性に与える影響に関する研究」

当事者研究を導入することが、その職場の「謙虚なリーダーシップ」「心理的安全性」「知識の交換」「メンバーの創造性」の促進につながるかどうかを検証する。

1. 以下の効果判定尺度の日本語版作成済
- 謙虚なリーダーシップに関する尺度
 - 心理的安全性に関する尺度
 - 知識の共有に関する尺度

2. 介入プロトコル作成済（英語版・韓国語版も含む）

構成	ワーク内容	形式	作業時間の目安 Full ver.	短縮版の例 Short ver.
イントロ ダクション	例：挨拶・説明・ストレッチ 自己紹介（気分・体調）など		15分	○
ワーク1	研究テーマ	2人対話 考えて話す	20分 （記入5分＋共有15分）	○
ワーク2	苦勞のエピソード	2人対話	20分（10分×2人）	○
ワーク3	苦勞のパターン		20分（10分×2人）	○
ワーク4	苦勞の年表		40分（20分×2人）	
ワーク5	個人的／社会的な要因		20分（10分×2人）	
ワーク6	仲間のコメント	4人対話	25分 （記入5分×3人＋共有10分）	○
ワーク7	実験計画	2人対話 考えて話す	5分 （記入2分＋共有3分）	○
ワーク8	（実験報告）		（10分）	
クロージング	感想や気分・体調を共有（全員）		15分	○
【所要時間】			180分（3時間）	120分（2時間）



3. 東京大学倫理審査専門委員会の承認済（右）

倫理審査専門委員会
判定報告書

令和2年1月27日

東京大学先端科学技術研究センター所長 殿

東京大学倫理審査専門委員会委員長

審査番号： 19-373
研究課題： 「当事者研究の導入が職場の創造性に与える影響に関する研究」
申請者： 先端科学技術研究センター 准教授 熊谷 晋一郎

上記研究計画について、令和2年1月27日開催の本委員会において、
下記の判定を行いましたので、ここに報告します。

記

判定	☒ 承認する 条件付きで承認する— 変更を勧告する—(再審査)—	☐ 承認しない 該当しない
理由・コメント	リーダーが部下に対して、研究参加を強制しないよう留意すること。	

企業へのアウトリーチ

企業 × 当事者研究プロジェクトHP
<https://ep.tk.rcast.u-tokyo.ac.jp/>

社会モデルに基づく就労支援



(株)東京大学エクステンションの協力を得て、大手町の教室にて、
企業向けの当事者研究導入用講座を開講予定